

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772500902		
法人名	有限会社 池田介護サービス		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	大阪府池田市栄町10-9		
自己評価作成日	令和5年11月20日	評価結果市町村受理日	令和6年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、阪急池田駅から徒歩2分、近くにアーケード商店街がある便利な場所にあります。新型コロナ流行前は商店街によく散歩に行き、地域の方と顔馴染みの関係が築けていました。新型コロナ感染予防のため、しばらく外出は中止していましたが、今年5月頃から、少しずつ外出する機会を増やしています。ご利用者様の笑顔が多く見ることができるよう、日々務めて支援を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阪急池田駅を降りてすぐの商店街を一步離れた場所(徒歩2~3分)に建つビルの中にある定員8人のこじんまりしたグループホームで20年の歴史がある。商店街は池田市民なら誰でも知っている、なじみの場所です。そこに1分で毎日散歩に行けるよい立地条件である。ビルの中のグループホームではあるが、屋上にはウッドテラスと畑があり閉塞感がないように工夫している。法人理念はふれあい互恵、①真心を込めたサービス、②ふれあいを大切にサービス、③助け合いのサービスで、事業所理念を「皆様の笑顔でいっぱい」としている。現在は利用者の半数が介護度4、5の重度者で困難も多いが、利用者と職員は家族のように仲良く、笑顔で過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の見えやすい場所に理念を掲示し、理念に基づいたケアの実践に努めている。	法人理念はパンフレット、重要事項説明書、ホームページなどで広く発信している。事業所理念は「皆様の笑顔でいっぱい」でどちらも利用者と職員が過ごすリビングルームの壁に掲示されている。時々、ミーティングなどで取り上げ意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し事業所代表者が役員を務めている。コロナ前は地域のお祭りや運動会に参加したり、近くの商店街へ散歩に行き挨拶を交わしたりと、交流ができていた。	もともとこの地域で長く会社を運営してきた代表はグループホームと同じビルに居住していて、自治会に入っており、地域の情報はすぐ入ってくる。コロナの自粛も少しずつ緩和し、今年は秋の市民レクリエーション大会に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の事業所に居宅介護支援事業所や訪問介護事業所があり、地域の方からの相談を受けたりしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議において、報告や意見交換を行いサービス向上に努めている。新型コロナウイルス感染予防のためなるべく少人数での開催としているためご家族の参加が最近ではできていないが、徐々に様子を見て参加していただけるよう努めていく。	長く書面開催であったが、最近は人数を少なくして対面の開催にしている。内容は報告・事故・ヒヤリ事例・意見と大阪市のフォーマットに沿っている。現在は出席者が自治会長と地域包括職員だけになっている。管理者は感染状況を見て参加者をふやしていく予定と語っている。	高齢者施設全体でも、コロナ感染症が5類に移行したのを期に、注意は怠らず、しかし対面の開催が増えている。管理者の予定が実現することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないこと等あればその都度、市の担当者にお問い合わせ助言を得ている。	新規利用者がどうしても自分でオムツを外してしまう事例があり、対応と身体拘束について市の地域支援課に相談した例があり、いままも継続中である。市の行事、市民レクリエーション大会(運動会)に利用者に参加した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修実施や身体拘束適正化委員会を開催し、正しく理解できるよう努めている。	自宅で転倒骨折後に入所した利用者が自分でオムツを外してしまい、転倒の危険性も高いため市に相談の上、やむを得ず、4点柵、車いすベルト、ロンパース着用を継続中である。手続きと書類の整備は正しくなされている。ビルの中のホームであるが屋上庭園などを利用し、閉塞感がないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修実施やミーティング等で意識づけを行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性があれば活用できる体制はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明し、理解・納得していただけるよう努めている。改定があった際は、文書で通知し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来所時や月1回発行の便り、必要に応じて管理者が電話や文書にて日常の様子を伝え、その際、意見・要望等伺っている。要望等があれば、みんなで共有し可能な限り対応するよう努めている。	家族の面会は現在はフリーになっており、頻繁にくる家族、そうではない例も多い。今回の外部調査の家族アンケートの回答率が低く、意見要望が皆無なのは、信頼してお任せ状態なのか、あるいは無関心なのか判断に迷う。	通信や連絡などは適切に行なっているが、管理者が今年交代したこともあり、家族との信頼関係がより深まるような取り組みの強化を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	頻繁にはできないが面談を行ったり、日々の雑談等で言いやすい環境を作り聞くように努めている。	できるだけ月1回の職員会議をしたいと努めているがコロナ対策や多忙のため、資料配布に終わっていたこともあったが少人数であり、意見は言いやすい雰囲気、出された意見にはきちんと対応出来ていると職員ヒヤリングでは聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を把握し、必要に応じて面談等で意見や希望を聞く機会を作り、労働環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受けそこで学んだ知識を他の職員にも伝え、共に向上するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	池田市グループホーム連絡会が以前は定期的に開催されていたが、新型コロナウイルス感染予防のため現在は、中止している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り入所前には面談を行い、ご要望や不安なこと等聞き取りを行っている。入所後も積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には見学に来ていただき、ご要望や不安なこと等聞き取りを行っている。入所後も面会に来られた際にお話を聴いたり、必要に応じて密に連絡を取り、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、ご本人の状態やご家族の要望等把握に努め、最適なサービスが受けられるよう、必要であれば他のサービスを提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力を見極め、家事や作業等できることを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前は、定期的にご家族と外出する機会があったが、新型コロナの影響により中止になってしまった。現在は、手紙や電話でのやり取り、面会の際に近況報告や要望等聞き、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響により以前よりは外出の機会や友人・知人の訪問は減っている。但し、短時間でのご家族との面会や年賀状のやり取り等できることは支援している。	家族以外の知人、友人の訪問はなく、なじみの場所にわざわざ行くこともないが、近くの商店街は池田市民にはなじみの場所なので時には馴染みの街並みを体で受け止めながら散歩を行い時には、なじみの店で買い物をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員はご利用者同士の相性を見ながら、橋渡し役をしたり必要に応じてフォローに入ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、言動から思いを汲み取り、ご家族にも聞き取りを行い、思いに沿った支援に努めている。	介護度4, 5の人が半数で、意思疎通は難しいことが多い。会話の中からはいつもと違う様子を見つけたり、事業所理念にしている、「笑顔がたくさん」見られるような支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の関わりの中から、またご家族が面会に来られた際に聞き取りを行い、入所前の生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新しく入所された方は、介護日誌等の普段の記録以外に別紙を用意し気づいたこと等を書き込み、職員間での情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を尊重し、職員やかかりつけ医とも連携し介護計画を作成している。	入所時のアセスメントを職員間で共有し入所後の観察から計画作成者が介護計画を作成、その後ケアカンファレンスの中で毎月モニタリングを行い6か月ごとの見直し再作成している。長期目標は認定期間とし、その時にサービス担当者会議をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いたこと等個別の日記に記録し、申し送りが必要な事項は、申し送りノートや朝の申し送りで情報の共有を図り、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況や一人ひとりに合わせたニーズに対して柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナにより一旦中止していた散歩や地域の行事参加を、状況を見ながら少しずつ再開している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を希望されれば、入所後も引き続き診てもらえるよう支援している。	利用者8名はかかりつけ医の内科訪問診療を月2回受けている。歯科は2名が訪問診療を受け他は希望・必要時のみ治療を受けている。医師の指示で他科受診が必要時は家族に連絡し家族が付き添い受診している。その際には採血結果、内服薬、生活状況など書面で情報提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないが、気づきがあれば主治医のクリニックの看護師に電話で相談し、必要に応じて指示を受けたり受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際、以前は定期的に面会に行っていたがコロナにより行けなくなったので、病院やご家族と電話や書類等で情報を共有し、なるべく早期にスムーズに退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援+C71: XFD1048576 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、終末期にホームで対応可能なことについて説明、意向を確認している。状態に大きな変化があった際や看取りの際、再度意向を確認、関係者とも連携し方針を決め支援に取り組んでいる。	入居時に重度化指針を基に事業所で出来ることできないことを説明している。状況・状態変化時は主治医から家族関係者に説明があり管理者・施設長ケアマネージャーが家族の同意を得て同席している。今年1名の看取りケアを行っている。在宅酸素療法の利用者も従来からの主治医の往診を受け治療を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあっても、定期的には訓練を行っていないため、今後定期的に訓練を行っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。11月の訓練は、消防の方立会いのもと、行う予定。地域住民への協力は避難訓練への参加を検討している。	年2回の火災避難訓練を実施しており、7月は夜間想定自主訓練、11月は池田消防署が来訪し消火器を使っての訓練を実践した。備蓄品は水・食料・アルファ米・カセットコンロ・衛生用品等を完備、職員連絡網は電話で管理し書面でフローチャートを作成している。職員見守り体制は同建物に住む代表者家族・近隣職員数人・近所の店等地域の協力がある。BPC策定は未完成である。	備蓄品はチェックリスト作成により定期的な期限等の点検が必要である。BPC作成を完成させ事業所での有事の行動指針と共に実際に訓練されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修やミーティングでは接遇や個人情報の保護について学ぶ機会を設け、人格を尊重した対応への意識づけを図っているが、不適切な対応があった場合は話し合い改善に向け対応している。	年間研修計画で接遇研修を行い、日常的な支援では特に職員の声掛けに注意喚起している。職員同志や職員の利用者に対する声掛け等、その場で気付きを本人に注意し現任教育している。ミーティング時にも尊厳・人格尊重・不適切対応などについて話し合い学習している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で個々の思いや希望を表すことができるよう関係づくりに努め、自己決定できない方には、選択してもらったり表情や言動で気持ちを汲み取り要望を把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間等、一応決まっているがその時の気分や体調に合わせて、時間をずらしたりと可能な限り個々のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は必要に応じて声かけや見守りのもとご自分でしていただき、出来ない方は毎日、整髪や洗面の支援やその方に合った服装を職員が選んだり、一緒に選んだりとその方に合わせた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は配達された食材を調理するため、台所から料理のにおいがしてくると楽しみにされている。コロナ前は調理もしていただいていたが、最近はテーブル拭きを一緒にしていただいている。	屋食のみ業者から献立表と食材が届き、職員がアレンジして調理している。家族からリンゴが届いた時はアップルパイやりんごのコンポートとヨーグルトのおやつを作り、希望を聞いて月に2~3回おやつレクにホットケーキ・ホールケーキ、屋上で栽培のサツマイモでスイートポテトを楽しんでいる。行事食で敬老会は「お祝い膳」クリスマスはサンタさんとケーキ、忘年会は宅配寿司とノンアルコールで利用者・職員も一緒に年越し祝いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分・食事摂取量のチェックを行い、栄養状態の把握に努めている。摂取量の少ない方には、補食として好きなものを提供したり、医師に相談し栄養剤を処方してもらったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来る方は声かけ・見守りのもとハミガキや義歯洗浄等行っていただき、出来ない方は液体ハミガキを使用し介助を行い個々に応じた対応をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、時間やその時の行動に合わせてトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄が行えるよう支援している。	布パンツ使用1名、リハビリパンツ1名、パット併用3名で紙オムツ4名である。肌にやさしい通気性の良いものを使用している。排泄チェック表で声掛けして日中便座使用を基本にして支援し、夜間は巡視時も安眠を重視して個別に支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や乳製品の摂取、毎朝の体操等を行い、個々に合わせた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっているが、その日の気分や体調に合わせて時間をずらしたり曜日変更を行っている。	週4日を入浴日として基本一人週2回と汚染時は入浴を声掛けしている。脱衣を嫌がる利用者1名には根気よく声掛けし職員2人で介助、浴槽に浸かり気持ちよ入浴してもらっている。入浴剤(事業所が準備)の香りを楽しみ日常会話や雑談をしながら見守り支援・介助を行っている。季節湯を行い、冬至には柚子を浴槽に浮かべて香りを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンやその日の体調・状況に合わせて安眠・休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化があれば医師に相談し、薬の変更等あった場合は申し送りみんなが把握できるよう努めている。服薬時には誤薬防止のため複数の職員でチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族から生活歴やお話を聞き、好きなこと得意なことを把握し、その方の力に応じて役割や楽しみ事等を日常生活に取り入れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ前は、ご家族と一緒に定期的に外食や散歩に出掛けていたが、途絶えてしまっている。また再開できるようになれば支援はしていきたい。	外気浴・日光浴は天候をみて屋上に行っている。面会も再開しているが家族と一緒にの外出はあまりない。商店街の花屋などに散歩を兼ねて買い物に出かけている。近くの小学校の運動会に歩いて行き見物し駅前の公園に桜の木があり、桜の季節は散歩を兼ね花見に行っている。今後はカフェに行く予定にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホーム立て替えて対応しているが、希望に応じてお小遣いを持っていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてホームの電話を使用したり、携帯を所持されているがご自分では掛けられない方には代理で掛けたりしている。年賀状等のやり取りもできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間が居心地よく過ごせるよう光や室温等に配慮し、リビングにはご利用者と一緒に行った壁面や、季節の物を飾ったりしている。	明るく日光がよく入り外の景色も眺められる。リビングと廊下の奥にエアコンを設置し温度調節と空気清浄機で感染予防対策している。額装の理念とクリスマスツリーとリースと壁面飾りがあり季節感がある。屋上庭園もあり、花と野菜と一緒に育て摘んできた花をリビングに飾る楽しみがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから離れた場所にも一人で座れる場所を確保したり、ソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、なるべく自宅で使われていた物を持参していただき、写真を飾ったりと居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	エアコン・ベッド・カーテンは事業所で設備されている。使い慣れた家具・位牌などを持参し毎日拝んでいる利用者も居る。収納用具・小筆筒・写真・本・アルバム、若い頃の刺繍作品を飾り自分好みに並べ居心地よく過ごせる様にレイアウトしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー全体がバリアフリーで手すり設置している。個々の能力に応じ、家具の配置等環境整備を行い、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		